JAPAN TOUR '81

RANDY MEISNER

公演スケジュール

東京公演 主催／Van Production
5月17日(日) 3時 日本青年館
5月18日(月) 6時30分 日本青年館
5月22日(金) 6時30分 中野サンプラザホール

名古屋公演 主催／YOUNG MUSIC 特別／テレビ愛知
5月19日(火) 6時30分 愛知厚生年金会館

大阪公演 主催／ユニバーサル大阪
5月20日(水) 6時30分 サンケイホール

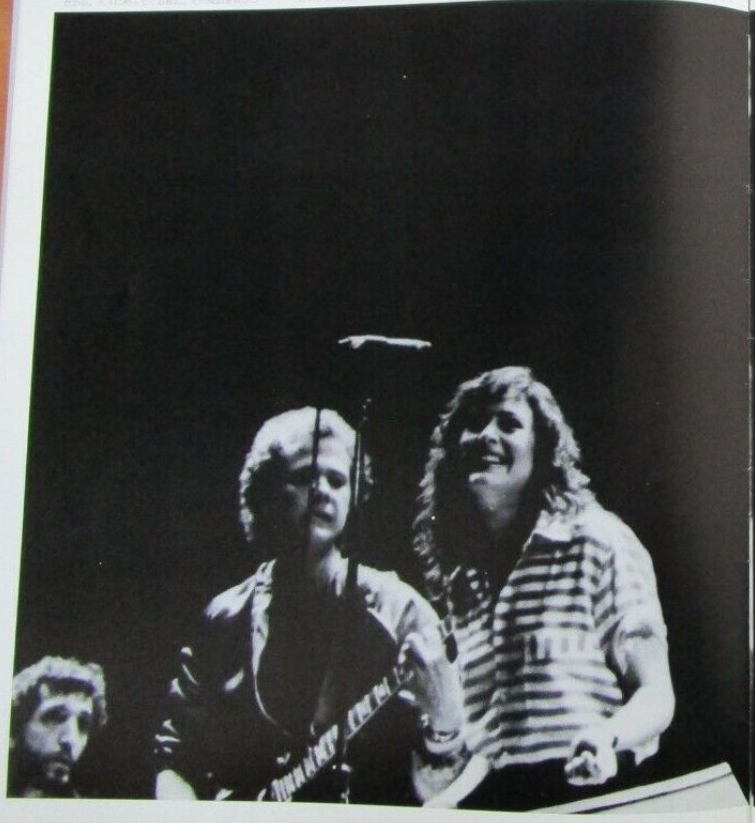
協力／エピック・ソニー
提供／Van Production
音響／東京サウンドシステム
照明／スタッフサービス
編集・デザイン／スタジオアイ

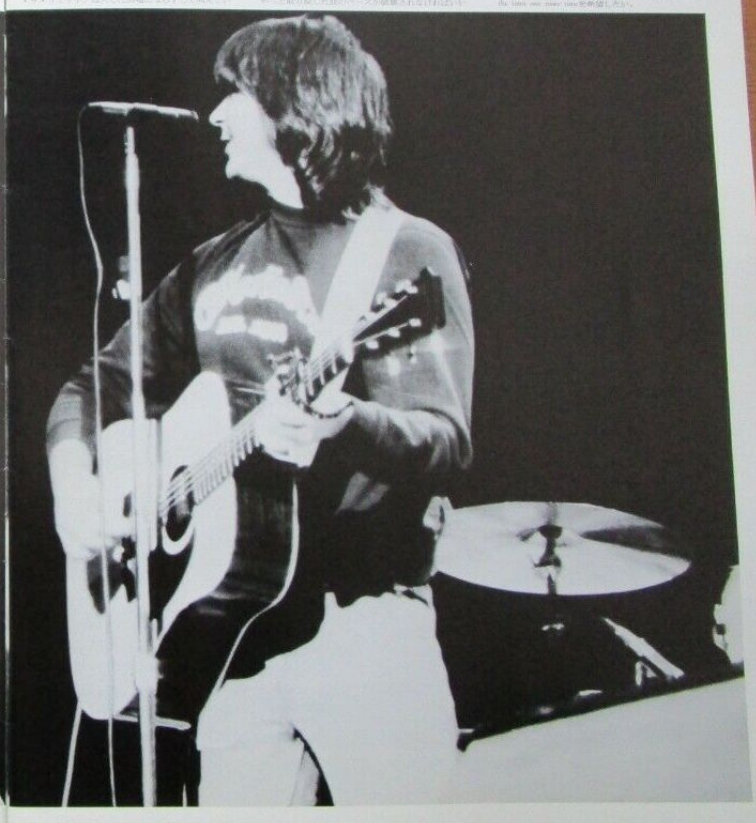
MEMBER
●RANDY MEISNER /GUITAR AND VOCALS●DON FRANCISCO /PERCUSSION AND VOCALS●THERESE HESTON /VOCALS●STERLING SMITH /KEYBOARDS●TODD SHARP /GUITAR
●DAN KIPPER /DRUMS●BRAD PALMER /BASS

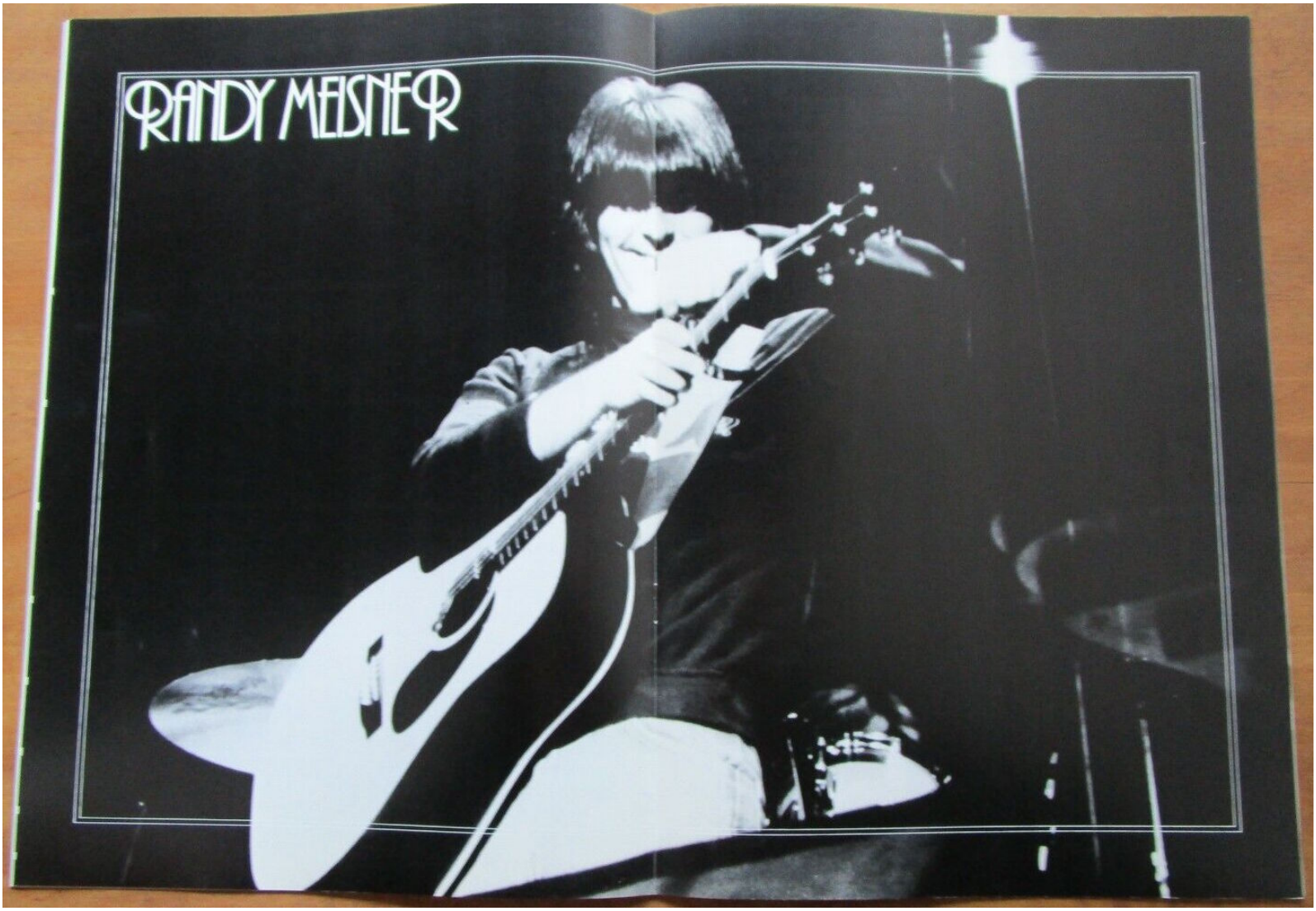
STAFF
●ELANA KELLEY●TRUDY GREEN●DON FORTE●DON CRISSEY

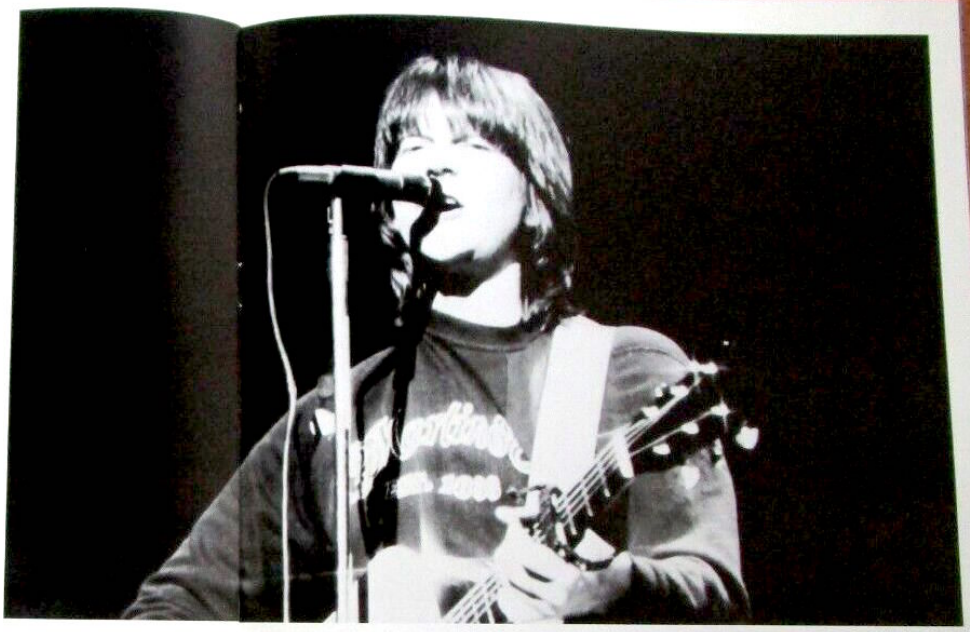
SPECIAL THANKS TO
Mr. JOHN MARX Ms. LINDA LYDN

自由を愛する、キミが好き。 山本さゆり






RANDY MEISNER



〈ランディ――その軽やかな飛翔と航跡〉

現在、「たった1人のイーグルス」として、ソロ活動に力を入れているランディ。彼の新しいLP「ワン・モア・ソング」は、彼の確固とした音楽がよく表われている素晴らしいアルバムである。かつてイーグルスで、名曲「テイク・イット・トゥ・ザ・リミット」を作曲し、歌い、イーグルスに新たなる飛翔を生みだした彼が、その才能を大きく延ばしつつあり、今までに増すうえ完全成長をとげている。

若人達のステージが日本で見ることが出来るのは、ロック魂を知り、新しい一体をファンとして共に踏み出せる素晴らしい出来事である。もちろん、あのベース・プレイ、クイン・リードの響き、これぞウエストコースト・ロックの極めつけ、といったコンサートの見どころは充分に持っている。「たった1人のイーグルス」として、どこまでイーグルスを超えることが出来るか楽しみである。

それでは、彼の生い立ちをざっと振りかえってみよう。

1946年3月8日、オクラホマで生まれた彼は、ジェームス・アラウン、オーティス・レディ、そしてエルビスにより10ロックを知り、ギターを手にする。が、高校の時、ギター演奏の他のにより1バンドに参加。「ザ・ソウル・ラバイバーズ」「ザ・ヴァ」というバンドを経て1969年、「ポコ」にベーシストとして加入する。しかし1年で脱退、後任にティム・ジュミットが入る。ランディはリッキー・ネルソンに認められ、彼の「ザ・ストーン・キャニオン・バンド」に加入した。ここで2枚のアルバムを出したが、彼自身はもっと他のことをやりたくなりだしていたのである。そこで、ドン・ヘンリー、グレン・フレイと出合うのである。またまたリンダ・ロンシュタットのバックバンドのベースが病気になり、ランディはジョン・ボイランの推めで代役を務めた。そこで初めてドンとグレンに会った訳だが、たちまち意気投合、イーグルスを結成することになった。ジョンの紹介でバーニー・レドンを加え、アサイラムと契約、'72年にロンドンで録音、ファースト・アルバムをリリースした。その中のデビュー・シングル、「テイク・イット・イージー」がビルボード10入り、一躍全米中にその名を知られることになった。ベトナム戦争の泥沼化、時代的背景動などで揺れきったアメリカに一休の清涼水をみたすイーグルス。彼の曲は、このアルバムには含まれていなかったが、彼自身、このアルバムには深い思い入れがあるようである。

'73年には「ならず者」'74年に「オン・ザ・ボーダー」発表、ランディの曲も多くなり、イーグルスは黄金時代を迎える。

'75年1枚目のLP「呪われた夜」で全世界をスライダスを得ることになったが、この中のランディの自作自演した曲「テイク・イット・トゥ・ザ・リミット」が大ヒットとなり、ランディの存在も一躍大きくなったのである。

この年、バーニー・レドン脱退、かわりにジョー・ウォルシュが入るという事件もあった。

'76年までに巨大化したイーグルスを見ってきたのは、60,000～70,000人を収容するアリーナでのコンサート・ツアーである。このころからランディは、大量なオーディエンスに確認を持ち始めたのである。自分の歌をやりたい、と思うことがしばしばだったランディは語っている。

しかし、名作品のLP「ホテル・カリフォルニア」が発表までに大ヒット、イーグルスはまさにスーパー・スターと化してしまい、ランディは前にいやの高しいやになる始末しむことになるのである。

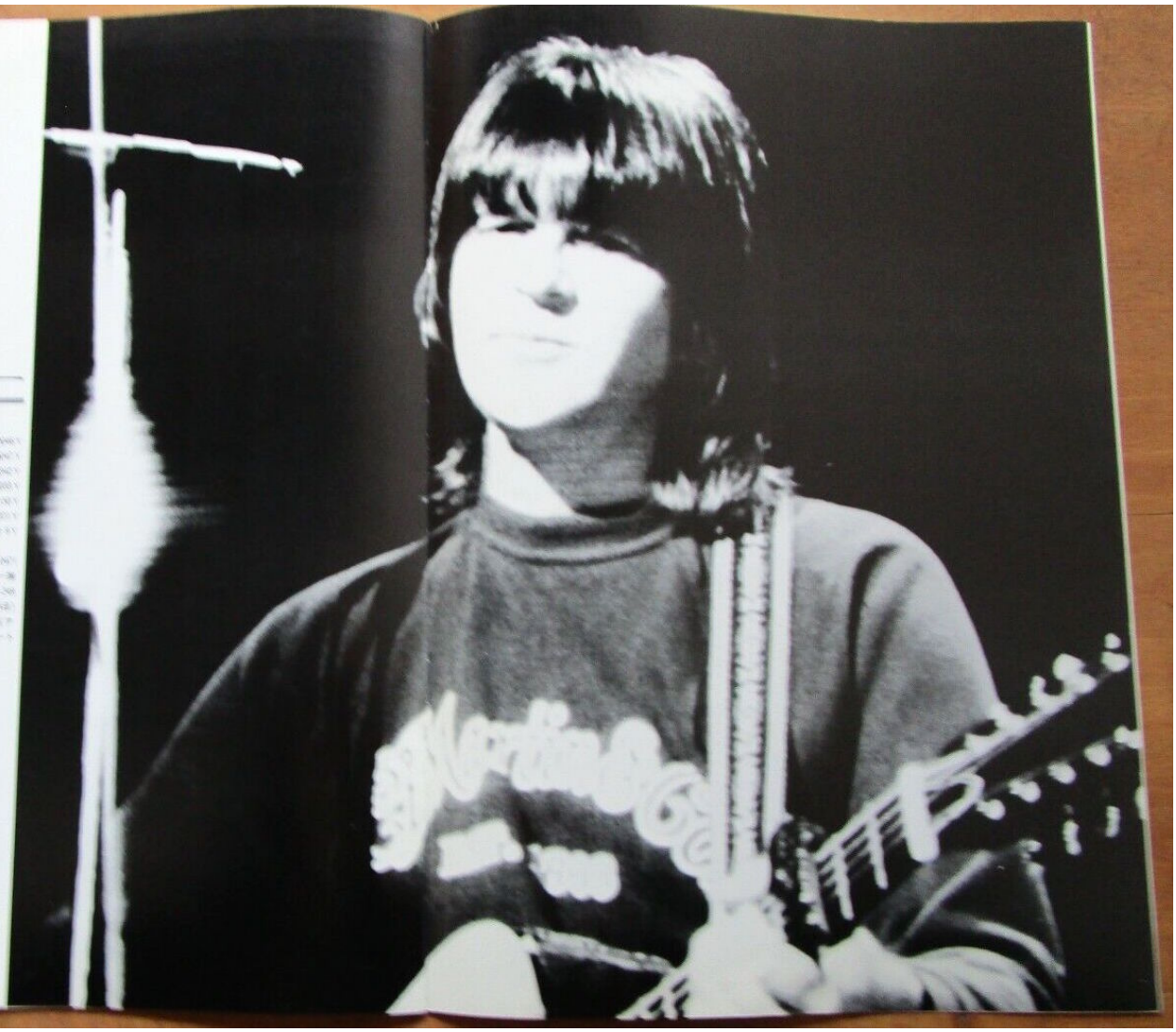
'77年ツアーを行なった後、ランディは遂にイーグルスを脱退することを決意する。理由、ランディはこう語る。「ずっと前から、イーグルスをやるのがつらかった。彼らは僕のファミリーだし、ひとつの団体だったのだから、でも新たな地位に向かうには、おらざるを得なかったんだ。

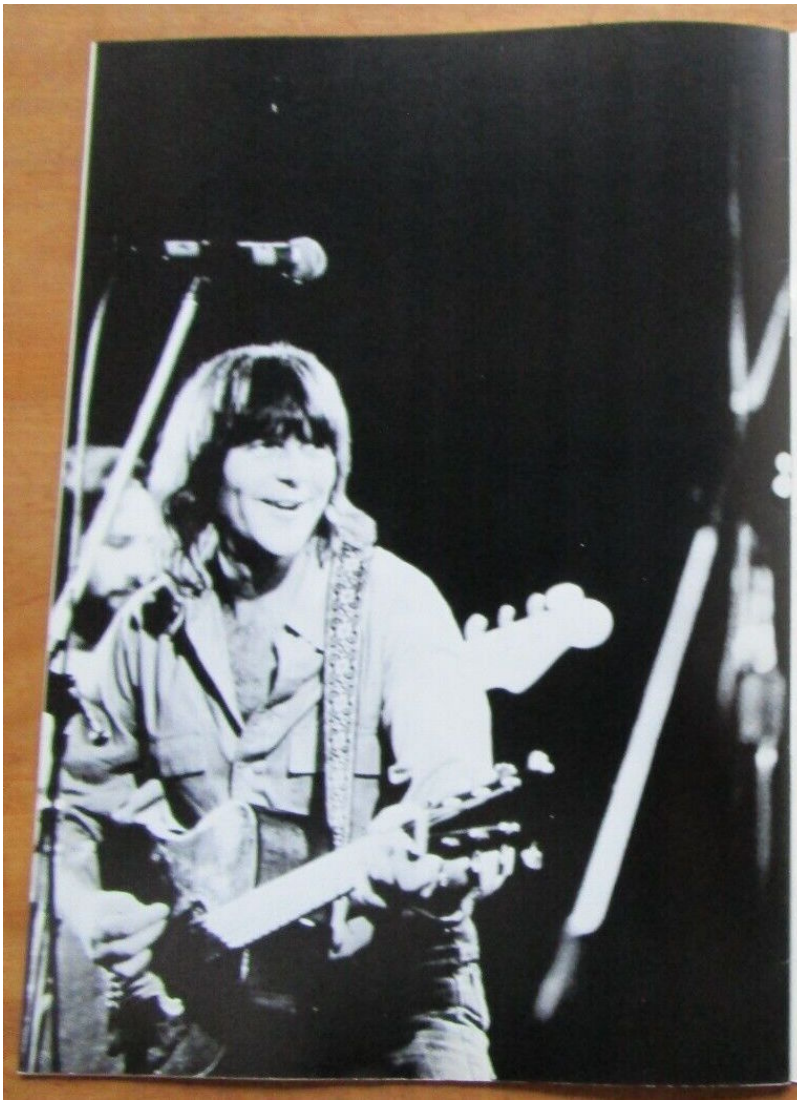
'78年、ファースト・ソロLP「テイク・イット・トゥ・ザ・リミット」を発表。ランディのほっとした気楽な表情がうかがえるLPである。この後ランディは、自分を見つめ直し、創作に励みたい、とネブラスカに帰ることになる。

現在、長年契約していたアサイラムを離れ、オピニオと契約。新たにスリック・ラビ、ティナ・ハルなどと共に新一歩を踏むべくLPを制作、発表する。ティーブ・ウインウッド・サポート、は未来で活躍を見せ、続く「バーバー・サン・ファイア」も2月にCBS盤国内発売と好評中である。まるにランディの新しい一歩は実現したといえるだろう。

限りない可能性の開拓を期待してやまない。願はうとするランディ、彼のこの小さな生き方を見る時、ライブコンサートでも見られる機会があるはず、その機会をみんなで祝福してあげようではありませんか。

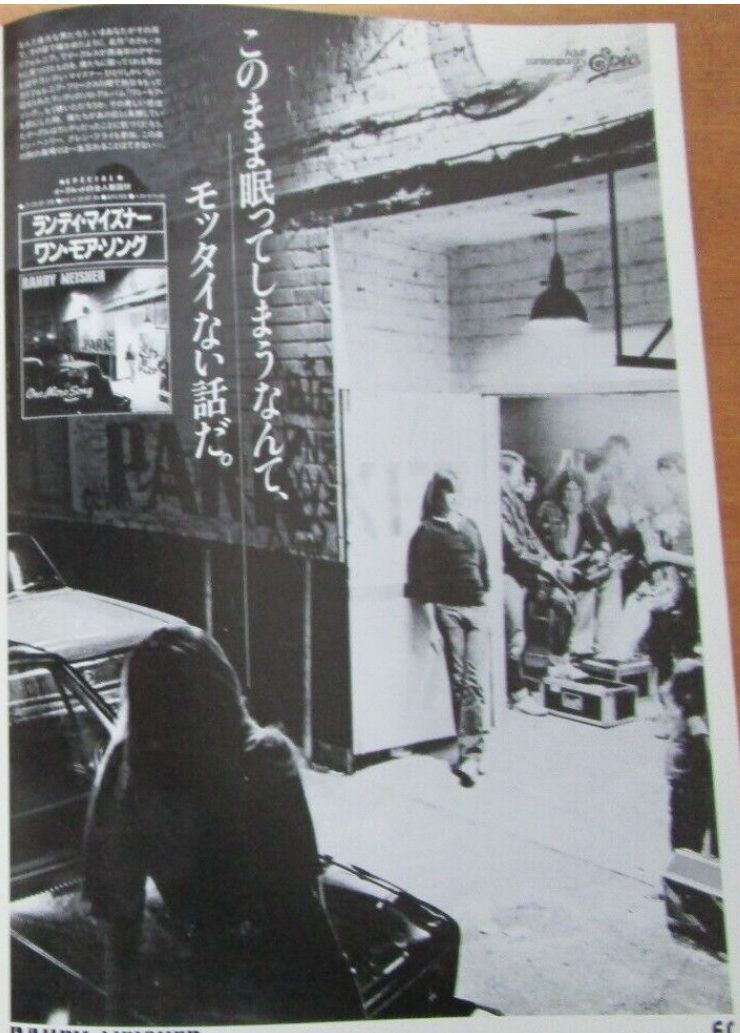
ディスコグラフィー





このまま眠ってしまうなんて、
モッタイない話だ。

ランディ・マイズナー
ワン・モア・ソング



RANDY MEISNER

EPIC/SONY INC.

RANDY MEISNER

Van Production

TOKYO JAPAN 470-0681